

遼寧師範大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	共生社会教育課程 国際共生教育コース 学年 4 氏名 内野 由太
留学・研修等の期間	2010年 9月 1日 ~ 2011年 7月 29日
留学・研修等の国、大学名	中国・遼寧師範大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	
留学・研修等の目的・動機	異文化理解、言語能力の向上等
求められた語学力 及び具体的な準備内容	中国語 4 単位以上 検定試験などで単位互換可
留学・研修等の選考方法	学内選考あり
情報収集方法	留学していた先輩や留学生などから情報を集めた。
語学クラスの状況 (人数、内容等)	学期が始まる前にクラス分け試験があり、それに応じて 初級、中級、高級に分けられる。1クラス、10~20人程度 。午前中はそのクラスでの語学学習、午後からは、大学が 開設している授業の中から選択。
履修科目・内容	中国語の授業では、精読、リスニング、口語、総合などが ある。それ以外の授業では、中国地理、歴史、文化、太極 拳、中華料理などの選択授業もある。
先方大学等の 単位認定状況	主に互換できる単位は、中国語の単位。
本学での単位認定状況	単位を取得していたので、していない。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	前期：9月~1月上旬 試験：1月上旬の2回。 休暇：10月初めの国慶節に10日ほど休み。

	後期：3月～7月上旬 試験：7月上旬。
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	チューターのようなものはない。
学習環境（図書館等）	学校の寮などで、中国人学生と勉強している人が多い。図書館は、試験前になると朝から長蛇の列ができるが、それ以外の期間では自由に自学できる。
居住環境	中国に行った最初の学期は寮、後期に入ってから中国人のおばあさんの家にホームステイしていた。学校の寮に住めば、多くの留学生と交流できるが、少し割高。
生活費（月額）	生活費4万程度×11

物価（食費、住居費等日本の物価と比較して）	食費は、学校食堂、屋台を利用すれば10元（120円程度以内）でお腹がいっぱいになる。留学生がよく行く韓国料理になればその2倍。寮は1ヶ月、2人部屋で1500元程度。もしくは、学校の外で、自分でアパートなどを借りることができる。その場合は、部屋の大きさ、立地でかわるが、800元～2500元程度。
留学・研修等の必要総額（渡航費、生活費を含む）	渡航費往復10万程度。 生活費月4万（寮費も含む）×11 総額60万円程度
治安状況	特に治安が悪いということはない。スリが多い程度。大切な物の管理を心がけることが必要。
保険	中国の大学で準備されていた保険のみ加入（300元程度） 健康上の問題のみ。
その他注意すべき事項	

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私が、中国に留学しようと思うきっかけになったのは、2年生の夏に大学の短期プログラムで中国に行ったことです。その時には、特に中国に対する関心はありませんでした。しかし、その時見た中国の印象は、それまで私が思い描いていたものと全く別のものでした。それから、もっと中国について知りたいという単純な思いから私は中国留学を決心しました。

そのようにして行った今回の留学でしたが、その中で1番に想ったことは、私は本当に多くの人に支えられていて、こんなにも良き友人が私の周りには多くいたということでした。

私の行った大学では、留学生専門の学部があり、その中で授業のみで生活をしていただけでは、直に中国を体感する機会が非常に少ないのが特徴でした。なので、自分から積極的に行動し、動くことが必要でした。しかし、中国に着いたばかりの当初は自分の語学力にも自信が持てず、積極的に中国人と関わることはできませんでした。そのような時にいつも、同じクラスの韓国人の友人に「なんでしゃべれるのにしゃべらないの？おまえならできるよ」といつも励ましてもらいました。その言葉を胸に、徐々に中国人の人々と交流することができるようになり、さらに自分からその幅を広げることにつとめることができるようになり、結局、気づけば多くの友達がいきました。

また、今回の留学中発生した東日本大震災は決して忘れることができません。その当時は中国にいたので日本の様子や実際の雰囲気などが全くわかりませんでした。しかし、発生直後から、私たちはなにかできないだろうかと考え、その後、大学の日本人で集まり、大学で募金活動をすることを決めました。その過程の中で、多くの留学生や中国の方々に声をかけていただき、また私たちの活動を見て賛同してくれた人々とは共に活動を行いました。ある期間内では、早朝、それから昼休み、放課後に大学内で、募金活動を様々な国の学生、それから中国人の学生とともに行いました。多くの学生、先生から助けの手をさしのべていただき、また多くの励ましの言葉をいただきました。その時の感動とみなさんにいただいた思いや言葉は今でも胸に深く残っていて、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、今現在も被災地の方々のためにできる活動を私が離れた大連の町では続いています。今、私は日本に帰ってきたので、これからさらになにができるのかを考え、行動していきたいと思っています。

私は、今年に入って、中国の生活に慣れてきたので、寮を出て、部屋を探すことを決めました。韓国人の友達と部屋を探し、ある中国人のおばさんが住む家に、2人でホームステイさせていただくことになりました。それからの生活は、本当に毎日中国人のおばあさんから、なみなみならぬ助けや世話していただき、またそのような生活の中で、中国人の家庭の様子などを知ることができ、本当に良い経験ができました。また、それだけでなく、私は1年を通して韓国人の友達と同じ部屋、家で過ごしていたこともあり、中国にしながら、中国だけでなく韓国のことについて学んだり、実際に体験することができました。

やはり、中国という国はみなさんもよく耳にするとは思いますが4千年の歴史を誇る国です。ですから、中国で、生の中国を五感を使って思いっきり体感すれば、生活期間に比例して、どんどんのめり込んでいくことができると思います。特に、

私には中国に関する関心がほぼなかったというのが本音なので、そこで、毎日経験するもの全てが新鮮で、毎日なにか新しいものを発見しては、中国の魅力に引きつけられていきました。そして、そのような1つひとつの経験は、私の想像やそれまでの中国に対するイメージを次々に壊していきました。そして、私は、日々様々な中国人の友人と交流をする中で、今まで自分の中国に対するイメージが大きく偏っていたものであることを痛感しました。そして、交流をしながら、私は彼らを中国人というよりも一人の友達として、見るようになりました。この留学で、私は私自身多くのことに気づき、成長できました。それは、本当に精神的な部分から学問的な部分まで、幅広く得た物があります。そういう意味でも、私は今回、中国に行くことができ、本当によかったです。これから、この1年で得たものを活かしながら、さらなる発展のために努力していきたいと思います。最後に、今回留学を支えて下さった全ての方にお礼を申し上げます。そして、これを読む方へ。もし中国に対して、関心がある人はもちろん、全く関心がない人には特に必見です。大連は、とても住みやすく、遊べる都市です。やりたいことはすぐやれる！食べたいものはすぐどれだけでも食べられる！環境が整っています。私は10キロ程度太りました。是非、どんな形でもいいので足を運んでみてはいかかでしょうか。

遼寧師範大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 初等教育教員養成 専攻・コース 社会科 学年 4年 氏名 田上 展子
留学・研修等の期間	2010年 2月 27日 ~ 2011年 1月 23日
留学・研修等の国、大学名	中国 遼寧師範大学
留学・研修等の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 交換留学 <input type="checkbox"/> 私費留学 <input type="checkbox"/> 語学研修 <input type="checkbox"/> インターンシップ <input type="checkbox"/> ワーキングホリデー
奨学金名（金額）	日本学生支援機構 短期留学推進制度(月額8万円)
留学・研修等の目的・動機	中国の発展に注目し、語学力向上と異文化理解のため
求められた語学力 及び具体的な準備内容	○大学の授業において、中国語単位を4単位以上取得しておくこと ※留学が決まったなら、大学の授業以外にも個人的に中国語の学習を絶対に進めるべきです！私は完全な準備不足で行った後にとても苦労しました…。あと、大学にも交換留学で遼寧師範大学から来ている中国人留学生がいるので、その人たちと交流して仲を深めることもおすすめします！
留学・研修等の選考方法	学内書類選考
情報収集方法	○インターネット ○以前留学されていた先輩から
語学クラスの状況 (人数、内容等)	○自分のレベルに応じて初・中・高級とクラス選択が可能 ※学期にもよりますが1クラスは平均して15名程度で、各国から集まった留学生の出身も様々です。ただ、大連の位置的に韓国・ロシア・日本からの留学生が各国の留学生の中でも大きな比重を占めていると思います。 ○1コマ、45分+5分休憩+45分 ※これが土日祝日を除いた毎日2コマ(8:00~11:35で、コマの間には25分の休憩あり)。内容はクラスによって異なるが、総合・口語・聴力・精読・新聞読解・作文など。
履修科目・内容	○必須(総合・口語・聴力・精読・新聞読解・作文など) ○選択(中国料理・太極拳・切り絵・HSK対策講座など)
先方大学等の 単位認定状況	必須の授業は、単位認定制度あり
本学での単位認定状況	単位互換は可能。しかし、すでに本学で中国語の単位は取得していたため、申請はしていません。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	○前期9月、後期3月開始の二学期制 ○前期は1月上旬・後期は7月上旬に期末試験があり、その後約2ヵ月

	間の長期休暇がある。また、10月と5月にも国慶節と労働節という1週間程度の大型連休あり。
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	○到着時の空港の出迎え以外は特別なサポートはなし。（あとは自分で現地の友人を作って、いろいろ助けてもらっていました。）
学習環境（図書館等）	○寮のロビーや空き教室を利用（図書館を利用するためには留学生は特別な手続きが必要なため、あまり利用している人はいませんでした。）
居住環境	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> アパート その他（ ）
生活費（月額）	居住環境にもよるが、月2500元程度（※1元=12～15円）

物価（食費、住居費等日本の物価と比較して）	○安い。ただ、外資系のもの（化粧品・電化製品など）は日本と同じか、もしくは逆に高くつくときもある。
留学・研修等の必要総額（渡航費、生活費を含む）	長期休暇の過ごし方、また居住環境にもよるが、だいたい全てを含めて70～80万円程度
治安状況	○普段生活する分には特に問題なし。ただ、日本と同じ感覚で行ったら何かしらの被害（交通事故・スリ・ぼったくりetc）に遭うこともあり得るので、日本にいるときよりも危機管理を徹底させることが大事だと思います。
保険	○ジェイアイ傷害火災保険会社の海外旅行保険に加入 （全てを保障してくれるようなパックプランもありますが、私はなるべく安く済ませたかったので自分に必要だと思われる保障内容を選択したオリジナルプランにしました。1年間で10万円弱） ※海外留学保険は確かに高いです。でも、自分に全く非がなくても何かしらのトラブルに巻き込まれることもあり得るので、高い御守り代だと思って必ず加入するべきだと思います！病気やけが、事件・事故、また物品損害（中国の物は壊れやすいです;）など、何かしらの損害が出そうなときも、「いざとなれば保険が何とかしてくれる」と思えるので、加入をおすすめします。
その他注意すべき事項	○食事（同じアジア圏といえども、日本食はやっぱりヘルシーです。なので、同じ調子で生活すると確実に太ります!）

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

「中国という国からあなたは何を連想しますか？」

もし、今の日本でこの質問をしたときに、この問いかけに返ってくる答えはあまりいいものではないと思います。靖国神社参拝問題・中国産食品の安全性・尖閣諸島問題・多くのパクリ疑惑に反日デモ…私が、「中国に1年間留学に行く！」と言ったときの周りの反応からもそれは強く感じました。しかし、その一方で、2008年の北京オリンピックから2010年の上海万博開催、そして2010年には国内総生産（GDP）でついに日本を抜いて世界第2位の経済大国にまで成長した中国。また何千年という悠久の歴史をもち、今までの日本に政治・経済・文化などあらゆる範囲で多大な影響をもたらしてきた隣国。しかし、昨今の日中関係はどうも芳しくない。また、中国では対日感情があまり良くないと言われている一方で、日本でも反中感情が高まってきている気がしてならない現状。

しかし、具体的に、「では中国とはどんな国で、どんな政治体制をもち、どんな文化で、どんな民族がいるのか。」このような疑問をもったときに、自分でうまく自分に答えられない自分がいた。そして、そのときに今まで中国という国をいかにマスコミや人の話といった第三者の目を通して見てきたかがわかった。

そこで、「それなら自分の目で確かめに行こう！そして、もはや世界の五人に一人は中国人だと言われる昨今で、中国語を学習することは、きっとこの先、いつか必ず役に立つだろう！」そんな中国に対する単純な興味・関心で私は中国への留学を決めました。

そして、いざ行ってみると、同じアジア圏といえども、そこに横たわる世界・文化の差、差、差。元々、国際交流に興味があり、授業やサークルで異文化理解について学習し、また、さまざまな国の留学生たちと交流をする機会があっただけに、多少のことなら驚かないし、どんなちがいだって私ならきっと受け入れることができるし、理解することだってできるだろうとある程度の自信があったのに、その自信さえも失いそうになることは正直しばしばありました。しかし、それをも乗り越えて、相手のことを理解しようとし、そしてこちらの思っていることも伝えていく。1年間という決して長くはない異国の土地での生活は、私にここでは書ききれないほどの多くのことを学ばせてくれました。

今、もし留学に興味があるけど、「私にできるかな？不安だな。」と思っている方がいるなら、ぜひその一歩を踏み出してみてください！楽しいことだらけ、きついことだらけ、うれしいことだらけ…どんな日々が待っているかはまだわかりません。でも、きっと行く前と帰ってきた後では全くちがう景色が待っていますよ。私自身がそうでした。応援しています！

そして、もし、留学に行くことが決まっている方がいるなら、出会い・健康・そして、感謝の気持ちだけは忘れずに思いっきり、決して長くはない海外生活を満喫してきて下さい！

最後に、この1年間はたくさんの方々周りの支えがあったからこそこの1年間でした。家族に日中両国の友人、そして各国から集まった友人に、日本からずっと支えてくれていた恋人に指導教員の先生、留学生係の方に日本学生支援機構の方々…と、ここでは書ききれない人々、また私自身気付いていない方々の支えもあったと思います。本当に心の底から感謝しています。ありがとうございました！

遼寧師範大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 共生社会教育 専攻・コース 国際共生 学年 4 氏名 江村 梨紗
留学・研修等の期間	2008年 8月 29日 ~ 2009年 7月 31日
留学・研修等の国、大学名	中国 遼寧師範大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	留学生交流支援制度（毎月8万円）
留学・研修等の目的・動機	中国語を日常生活レベルまで高めるためには、日本で勉強するだけでは不十分だと感じたから。また中国での生活を自分自身で体験したかったから。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	中国語の単位を取得していなければいけないが、それ以外の資格・試験は特に必要なかった。
留学・研修等の選考方法	特にないと思う。
情報収集方法	2年の時に1ヶ月の短期留学に参加し、現地の様子を見てきていた。また、インターネットでサイトを見たり、説明会に参加したりした。
語学クラスの状況 （人数、内容等）	大きく初級・中級・高級に分かれており、またさらに初級は2段階、中級は3段階にわかれている。人数は級や学期によって差があり、1クラス10~30人くらい。 様々な国の人がいるが、韓国人が最も多く、次いでロシア人と日本人が多い。 毎朝8時から11時半まで中国語の授業がある。授業は1コマ45分で、2コマ（90分）を使って1つの科目を勉強する。1日に2つの科目を勉強する。
履修科目・内容	<必修> 口語：会話の授業。 精読：文章を読み進めながら、新出単語や文法を勉強する。 聴力：リスニングの授業。 閲読：HSK（汉语水平考試）の閲読問題を解く。 写作：作文の授業。 <自由選択> 二胡：中国の伝統的な楽器・二胡の授業。 剪纸：中国の切絵の授業。

	書法：書道の授業。
先方大学等の単位認定状況	中間テストと期末テストで規定の点数以上を取れば証明書がもらえる。
本学での単位認定状況	未定。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	秋学期(9月～1月)と春学期(3月～7月)の2学期制。 1学期につき中間テストと期末テストがある。 冬休みと夏休み以外に、10月と5月に1週間くらいのゴールデンウィークのような休みがある。
履修に関する留学先大学のサポート(チューター等)	チューターの制度はないが、分からないことは事務室の先生に聞けば対応してくれる。また、すでにそこで留学している日本人にも助けてもらった。
学習環境(図書館等)	午後に自由選択の授業をしていない教室は利用可能。ほとんどの教室で誰かが勉強している感じだった。また、教室以外でも寮兼ホテルのロビーや、中庭などでも勉強している人がいた。図書館は留学生でも利用可能だが、中国人の学生が早朝から場所取りをしていて、留学生の入る隙が無いらしい。
居住環境	寮
生活費(月額)	特に遊びまくったりしなければ4～5万で生活できる。ただ休暇を利用して出かけたり、クラスの飲み会などが重なったりすると7万くらい出費することもあった。

物価(食費、住居費等日本の物価と比較して)	<p><食費>かなり安い。大学内に幾つか食堂があって、大学の周りにも学生相手の食堂のようなお店や出店があるので、1人で食べるだけなら安くても50円、高くても300円で満腹になる。ただし洋食、韓国料理、和食などの外食は割高。中華料理は大勢でいけば、複数の料理が食べられるうえ、安めに抑えられる。</p> <p><住居費>留学生寮は中国人の学生寮に比べて割高で、私が住んでいた1人部屋は毎月27000円くらい。ただし共同の台所しかなく(冷蔵庫とレンジと流しとガスコンロがあるだけ)入浴もお湯が出る時間が決まっていて少し不便。むしろ外で部屋を借りた方が安くてきれいで便利だと思う。</p> <p><その他>文具や雑貨も日本より安いですが、洋服などは(デザインの問題もあるし)日本と変わらない値段の時がある。</p>
留学・研修等の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の奨学金8万円×12ヶ月(生活費と大学に支払う雑費) ・12万円程度(1年オープンの航空券) <p>計約108万円(ただし20万円ほど余ったので、実質90万程度)</p>
治安状況	夜中に出歩いたりしなければ特に大きな問題はない。私は特に被害が無かったが、スリは多いらしいので外出時に貴重品は注意が必要。またとても車が多く、スピードも速いうえに交通規則を守らない

	人も多いので、交通事故に巻き込まれないよう注意した方がいい。
保険	入学手続きの際、大学が留学生に対して準備している保険に自動的に加入した。それ以外に個人では何もしていないが、現地で知り合った人の多くは、日本で事前に何かしらの保険に加入していた。
その他注意すべき事項	<ul style="list-style-type: none">・体調管理が一番大事で、飲み慣れた薬は一通りもっていくべき。ただし、風邪の場合は現地の薬の方が効き目があることもある。・買い物の時（食事やスーパーでの買い物は除く）、すぐに外国人だとばれて値段をふっかけてくるので、値段交渉するのは基本。・スーパーには日本の洗剤などもおいてある。

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

2年生で友達と短期留学に参加した時、私の中国語力は日常生活レベルとは到底いえないレベルでした。その時は初級が一番上のクラスにいましたが、そのクラスでは自分達の他に日本人がいないということもあって、周りのレベルに圧倒され、ものすごく悔しい思いをしました。また、中国での生活自体も予想以上に快適だったので、「絶対に1年後留学してやる！」と決意して帰国しました。

1年後の8月末に再び大連に行くと、あまり変わっていないことに安心しました。今回はたった1人でやってきたので、しばらくは寂しくなることもありましたが、日本人を見つけて情報交換したり、クラスの色んな国の人とも中国語で話したりすることですぐに慣れ、運動会や遠足、発表会などの行事を通して多くの友達を作ることができました。

今回留学していて、積極的に行動すること、寛容であること、緩急をつけることを学びました。まず積極的にならなければ、友達もできませんし会話能力もあがりません。なにより、貴重な環境にいるのに多くの人と関わる機会を減らすのはもったいないです。学校では、行ったこともない国の人と話して、テレビなどでは見えない日常生活を知ることが出来ます。同じ日本人同士でも、世代もバックグラウンドも様々で、色んな人に出会えました。一步町へでれば、一般の中国人の生活を見たり聞いたりできます。市場で買い物をすればお店の人から話しかけてくれたりしますし、寮の管理人のおばちゃんとも仲良くなって、よく愚痴を聞いていました。一番のお勧めは中国人の友達を作ることです。現地では互いの母語を学んでいる者同士が教えあう相互学習が盛んで、私も3人いました。彼女達とは勉強以外にも、お互いの国のことや趣味、日常生活、学校のことなどを話しました。資格試験を受ける時にはお互いに教えあいましたが、わざわざ私のためにいつもより多く時間をとってもらったりして、本当に助けられました。お別れの時はすごくさみしかったです。今もメールでやりとりしています。

また外国で生活していると、寛容であることも大切だと思いました。同じアジアでも習慣や文化は違います。始めは違いに慣れず、ストレスになることもありましたが、それをまず受け入れてみるようにしました。受け入れることは、自分もそれと同じようにしなければいけないということではありません。ひとまず相手がそうであることを否定しないことだと思うので、自分の習慣を無理やり変えたりもせず、自然に中国での生活を作っていく感じがします。すると知らないうちに中国の習慣を獲得していきたりします。また、そういう風に考えるようになってからは、客観的に日本を外国と比較したり、中国を外国と比較したりする感覚ももてるようになりました。

そして、やはり留学したからには成果がほしいと思い、HSKと中国語検定に挑戦しました。どちらとも1回ずつ失敗していて、その失敗から「次は絶対に受かりたい！」と思って、最後のチャンスの時は試験1ヶ月前から準備をしました。その1ヶ月間は正直地獄でしたが、前述の友達の助けもあって乗り越えることができ、無事2つとも目標を達成しました。その時の原動力は、夏休みに入ったら旅行をするということでした。この旅行は留学最後の楽しみでもあったので、それまでは頑張ろうと思えました。そして頑張った後の旅行はすごく楽しいものになりました。こういう風に生活に緩急をつけると、留学がすごく充実したものになります。

どんな国もそうだと思いますが、中国も良い所と悪い所があります。その悪い所しか知らないという人もいると思いますが、実際生活してみないとわからないことは沢山あります。お店のサービスや店員の態度が悪かったり、ニセブランドの品物が普通に売ってあったりするの事実です。でも大きな荷物を抱えて郵便局に行っていた時に、知らない大学生の女の子が当たり前のように助けてくれたのも事実です。バスで若い人がお年寄りに席を譲るのも何度と無く見えています。両方の面を知らないとその国を理解しているとはいえないなと思いました。また別の国を知って自分の国も見つめ直すことができます。それを体感するには、留学はとて面白い機会だと思います。最後にこの留学でお世話になった方々、支えてくれた家族と友人、中国で出会った人達に感謝します。貴重な体験をたくさんさせてもらいました、ありがとうございました。

遼寧師範大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	共生社会教育課程 国際共生教育コース 学年 4年 氏名 村上いつみ
留学・研修等の期間	2007年8月29日～ 2008年7月20日
留学・研修等の国、大学名	中国 遼寧師範大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	日本学生支援機構 短期留学推進制度（月8万円）
留学・研修等の目的・動機	中国語が好きだったことと、日本と歴史的にも関わりの深い中国について、実際に行って理解を深めたいと思ったため。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	中国語4単位以上の取得。 その他、特に高い語学能力は問われない。あいさつや簡単な単語を覚えていくとよいと思う。
留学・研修等の選考方法	学内選考あり
情報収集方法	主に以前に留学していた先輩に話を聞いた。インターネットも活用した。
語学クラスの状況 （人数、内容等）	最初の試験で初級（7クラス）・中級（7クラス）・高級（2クラス）にクラス分けされる。1クラス10～20人くらい。最初の1週間は自由にクラスを替わることができるので、自分の語学力に合ったクラスを選ぶことができる。クラスにもよるが、約7、8割が韓国人。
履修科目・内容	会話、精読が主で、他にリスニング、新聞講読が週にそれぞれ2コマずつあった。新聞読解の授業はレベルによって作文のクラスもあった。 その他、選択授業で中華料理や書道切などの文化の授業や、文法や貿易作文などの授業があり、受けたい人が自由に受けられる。 HSKの時期には、有料で対策授業もある。
先方大学等の 単位認定状況	精読、会話、リスニング、新聞講読、閲読
本学での単位認定状況	単位の互換は中国語の単位に互換できるが、すでに中国語の単位は取得済みだったので互換はしていない。

学年歴 (学期・試験・休暇等)	前期：9月～1月上旬 試験 10月末と1月上旬の2回。 休暇 10月初めの国慶節に1週間ほど休み。 後期：3月～7月上旬 試験 4月と7月上旬の2回。 休暇 5月初めのゴールデンウィークに1週間ほど休み。
履修に関する留学先大学のサポート (チューター等)	空港まで迎えに来てくれる。それ以外のサポートはほぼないので、ほかの手続きは自分で行わなければならない。チューターという制度はないが、中国人の日本語を勉強している学生と相互学習を行う人が多い。その勉強相手は大学側に紹介してもらえるときもあるが、ほとんどの人は自分でみつける。日本語学習者は多いので、すぐに見つけることができる。
学習環境 (図書館等)	図書館はカードを作らないと利用できない。留学生で図書館を利用している人はほとんどいなかった。教室や寮のロビーで勉強する人が多かった。
居住環境	寮 (旧館の二人部屋)
生活費 (月額)	1ヶ月2300元～2500元くらいでやりくりしていた。 寮は1ヶ月1200元 (約18,000円) で、残りを食費や交際費や試験の参加費などに使っていた。
物価 (食費、住居費等 日本の物価と比較して)	1元=15～16円 1食10～20元くらいで満腹になれる。日本に比べてとても安い。外資系のものや質のいいものは日本の価格とさほど変わらない。
留学・研修等の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	渡航費：1年オープンチケット10万円 保険費：10万円 生活費 (住居費・食費・旅費等)：約50万円
治安状況	治安は言われるほど悪くはないが、やはり中国人から見るとわたしたちは外国人なのでねられやすい。スリや盗難はよくおこっていた。また、自分の身は自分で常に気をつけて守ることが必要。夜暗くなってからの一人歩きは控えたほうがよい。
保険	海外保険に加入。盗難に遭ったり体調を崩して病院に行ったりすることがあるかもしれないので、加入しておいたほうがよいと思う。
その他注意すべき事項	薬や化粧品などは自分に合ったものがあるので、日本から持っていくべき。最初はお腹を壊す人が多いので、正露丸があればよいと思う。服やかばんのポケットに財布や携帯電話を入れておくのは危険。日本食が恋しくなるときが絶対にあると思うので、日本からインスタント食品などを持参したらよいと思う。中国で日本の食品が買える所もあるが、日本で買うよりも高いので、日本から買っていったほうがよい。

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

留学を終えての今思うことは、本当に行ってよかったということです。留学中様々なことを経験し発見し学び吸収し、とてもよい経験をさせていただきました。約10ヶ月という短い間でしたが、中国という今までの生活とは違う環境の中で得たものは、とても大きいものでした。

わたしはこの留学をする1年前の2年生の夏に、1ヶ月間短期で遼寧師範大学へ語学研修に行きました。1年生の頃から留学したいという気持ちがあったので、留学に向けて、中国での暮らしや学校がどのようなものなのか知るためにも行ってみようと思ったのです。しかし1ヶ月の生活はそう簡単なものではなく、自分が思い描いていたものとは違うところがたくさんありました。積極的に話せない自分に苛立ち、また中国の接客態度やマナーの違いがいやで、1ヶ月終えて帰ってくるころには、留学への思いはとても薄く弱くなっていました。そのため、この1年の交換留学が決まったときは、行くかどうかとても迷いました。しかし、そのときに以前留学されていた先輩や先生に、「迷っているのなら行ったほうがいい!」、「そんなに重く考えずに軽い気持ちで行って見たら?」と言われ、留学を決意したのです。そんな不安な気持ちを抱えつつ、留学生活はスタートしたのですが、実際始まってみると、毎日が新鮮で楽しくて、そんな不安はいつの間にか消えていました。友達ができて授業にも慣れて、来てよかったと心から思いました。中国の接客態度やマナーの違いは、最初はやはりなじめず嫌なところもありましたが、生活していく中でいろいろなものに触れていくうちに、考え方も変わり、むしろその違いを楽しんでいけるようになっていました。あのまま留学に来ていなかったら、おそらくわたしの中国に対する考えや見方は悪いままだったと思います。10ヶ月間という短い期間でしたが、わたしなりに理解を深めることができ、大変よかったと思います。

語学についてですが、遼寧師範大学での授業は、留学生だけのクラスなので、あまり中国の方との交流はありません。授業だけでは生の中国語や中国の文化に触れる機会が少ないのです。そのため、週に3回ほど中国人で日本語を勉強している大学生と一緒に勉強していました。行ったばかりの頃は、どうしても日本語で話してばかりでした。自分の語学力に自信がなく、話すのが恥ずかしいという気持ちがあったのです。しかし、それではだめだと思い、今日は何について話そうとか前もって準備をしていくようにして、それを続けていたら、気がつくと自分が言いたいことを相手に伝えられるようになっていました。それからは話すのも楽しくなって、積極的に話すようになりました。間違いを恐れずにどんどん話していくことがとても大事だと感じました。後期に入ると、わたしは主にHSKというテストに重点を置いて勉強しました。そのため、後半では話す力はあまり伸びなかったかもしれません。それは少し心残りではありますが、HSKでは自分でやりきったといえるくらいとても頑張ったのでよかったかなと思います。

留学中はもちろん楽しいことばかりではなく、落ち込むこともあれば泣いたこともあり、これまででいちばんといえるくらい辛い時期もありました。ですが、過ぎてみたら、それは自分が成長するきっかけになっていて、貴重な体験

ができたと思います。また、人との出会いもたくさんありました。わたしはクラスの韓国人の女の子と仲良くなって、彼女はわたしのことをとても慕ってくれました。言葉が完全に通じなくても心を通わせることができるということが身をもって感じることができました。

留学では語学だけでなく、むしろそれ以外のところで得られたものがたくさんあったように思います。人との出会いもたくさんありますし、毎日が発見の連続で、1日1日大変充実した日々を送ることができました。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

中国への交換留学は英語圏への留学とは違って、テスト等の点数は関係ありません！単位を4単位取っていれば、選考はありますが、行くことができます。少しでも興味のある人はぜひ行ってみることをお勧めします！